
富良野市の地域経済循環分析

2018年2月26日

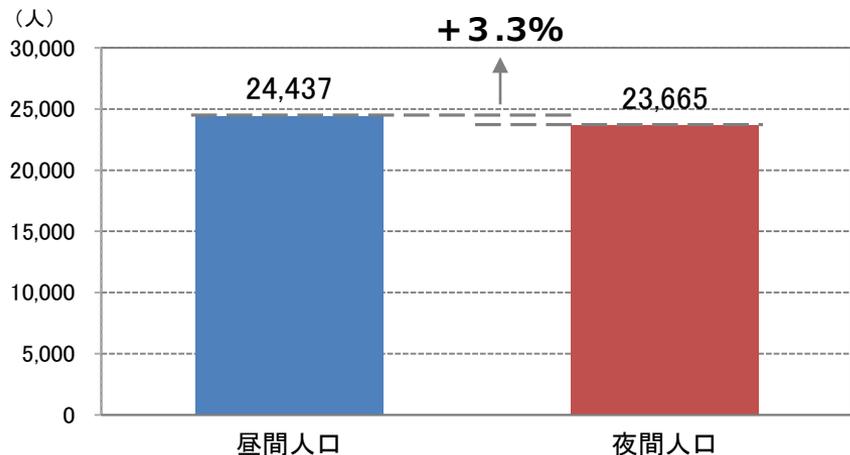
目次

1. 富良野市の地域経済循環分析の概要
2. 富良野市の課題と取組の方向性

1.富良野市の地域経済循環分析の概要

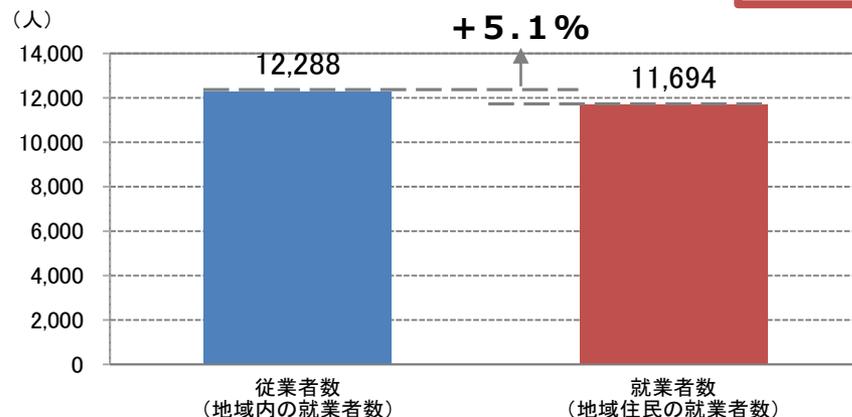
地域の概要（富良野市）

①夜間人口・昼間人口（2013） グラフ(1)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

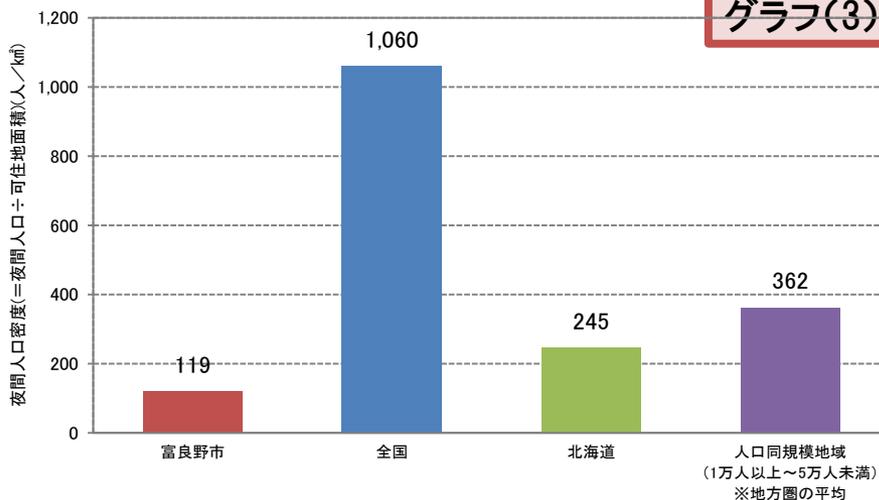
②就業者数と従業者数（2013） グラフ(2)



注）従業者数は、従業地における就業者の数（域外からの通勤者を含む）である。
就業者数は、常住地の住民の就業者の数（域外への通勤者を含む）である。

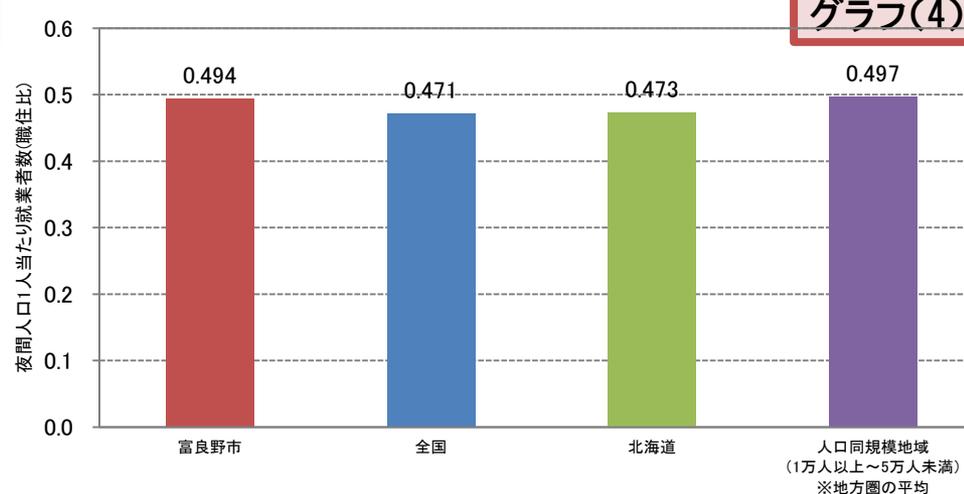
出所：総務省「平成22年国勢調査」、「平成21年・平成26年経済センサス-基礎調査」より作成

③夜間人口密度（＝夜間人口／可住地面積） グラフ(3)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、「統計でみる市区町村のすがた2012」より作成

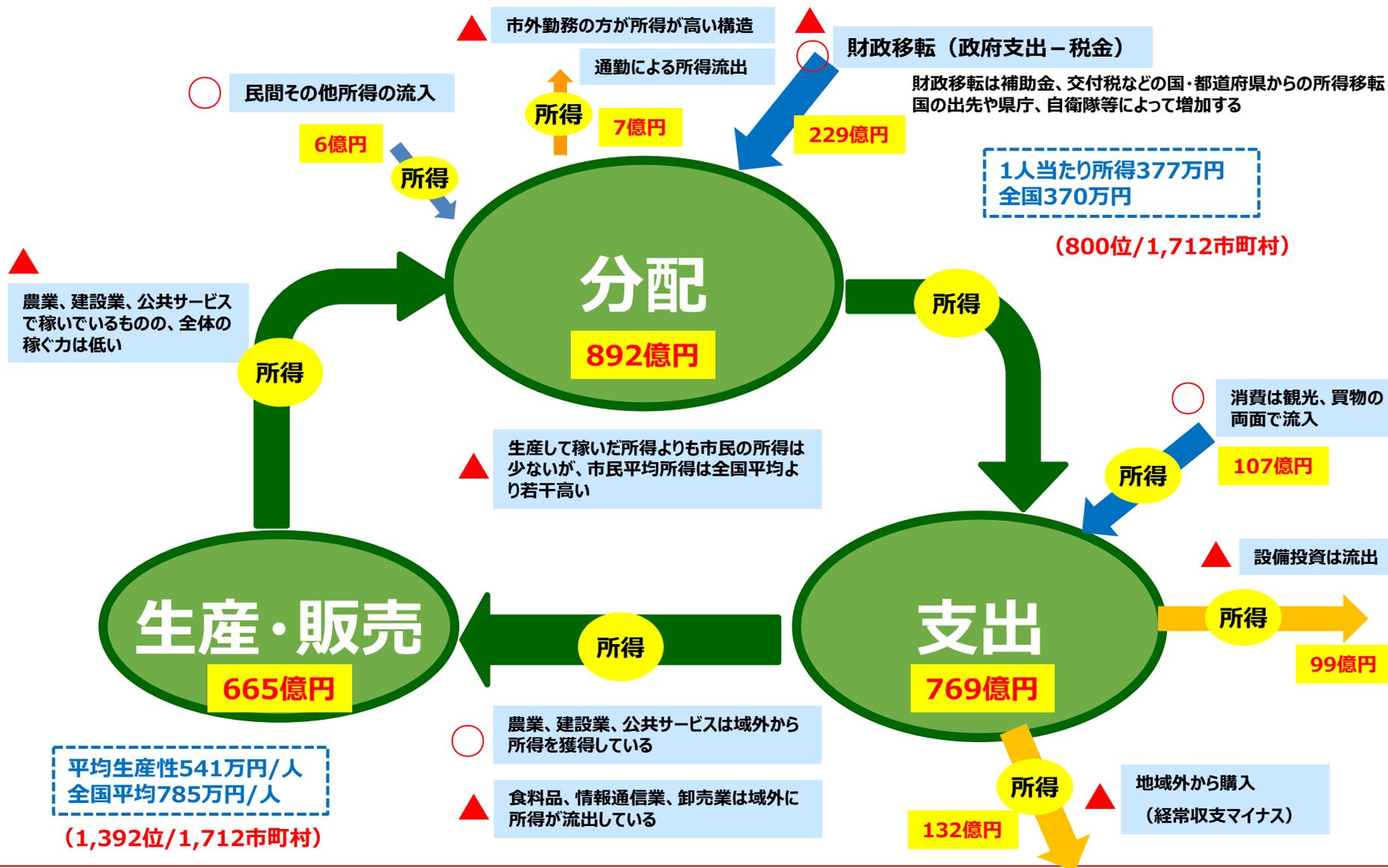
④夜間人口1人当たり就業者数（職住比） グラフ(4)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

地域経済循環分析：全体の構造

地域の稼ぐ力は弱く、雇用者所得は低い構造である

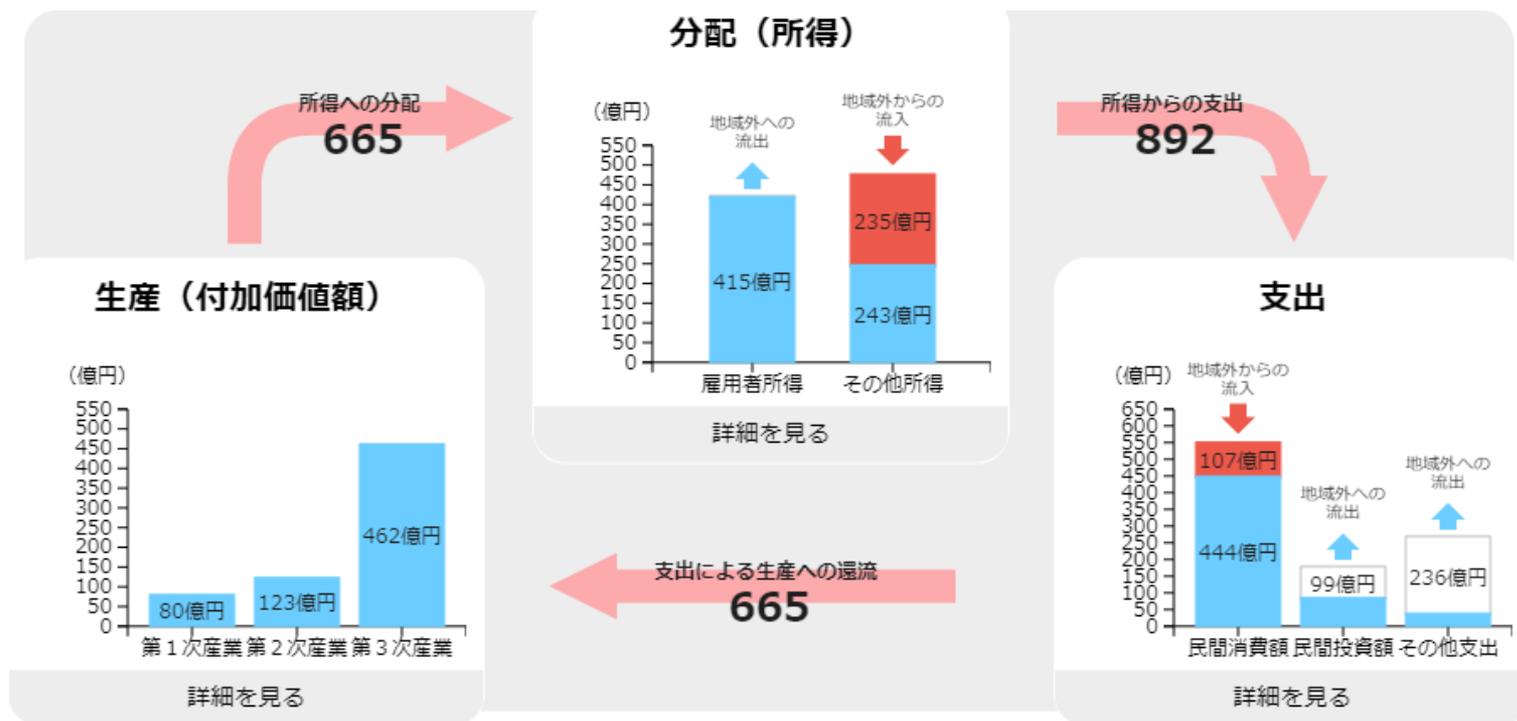


参考) RESAS地域経済循環分析図

地域経済循環率
74.5%

地域経済循環図 2013年

指定地域：北海道富良野市



【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

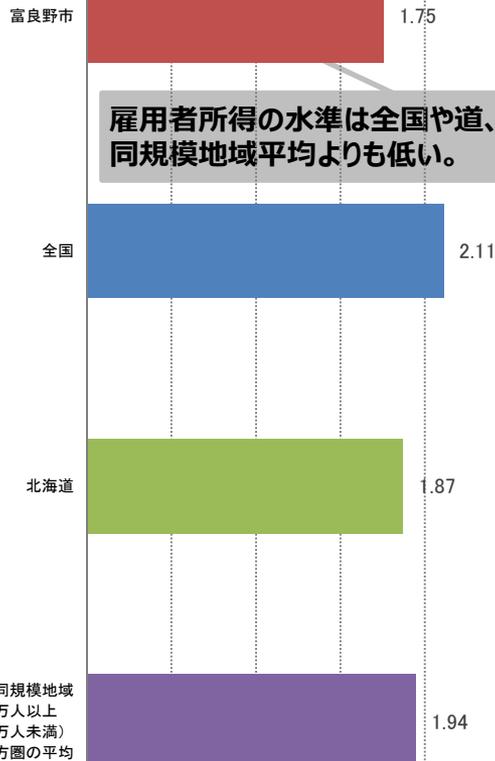
住民1人当たり所得（富良野市）

①夜間人口1人当たり雇用者所得

夜間人口1人当たり雇用者所得(百万円/人)

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5

グラフ(5)

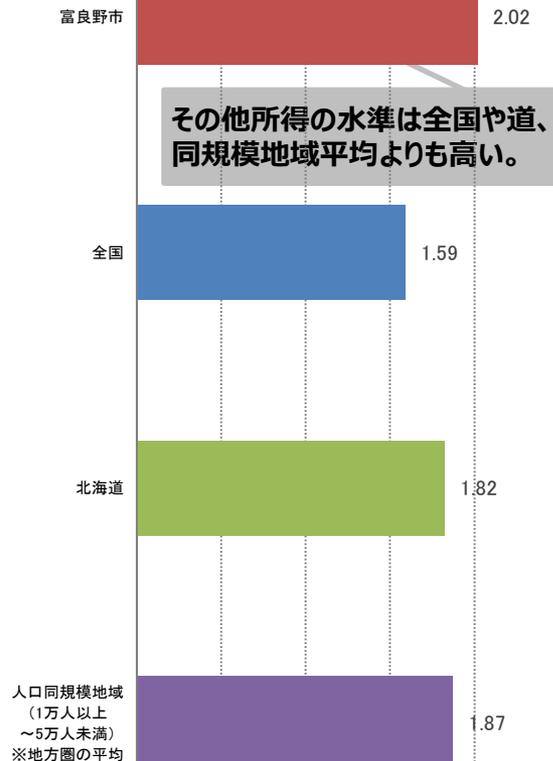


②夜間人口1人当たりその他所得

夜間人口1人当たりその他所得(百万円/人)

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5

グラフ(6)

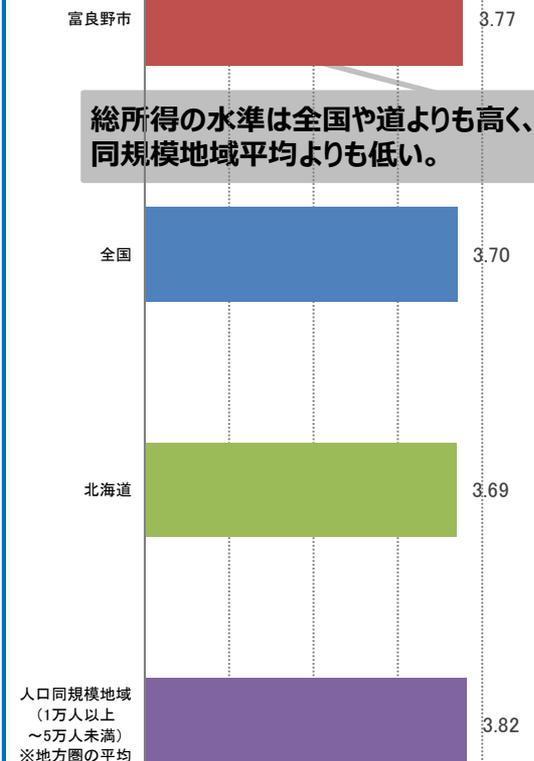


③夜間人口1人当たり所得 (=雇用者所得+その他所得)

夜間人口1人当たり所得(百万円/人)

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0

グラフ(7)



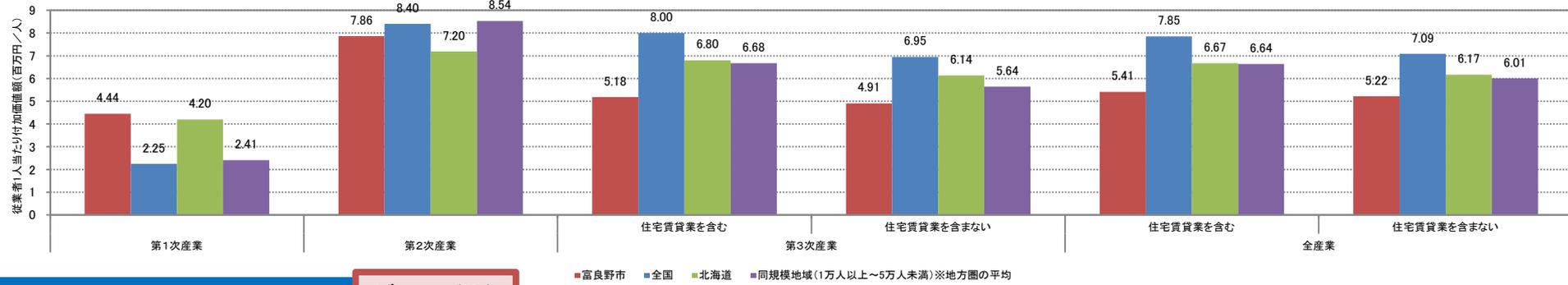
注1) 雇用者所得は、地域内の生産活動によって生み出された付加価値のうち、労働を提供した雇用者への分配額である。

注2) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転（交付税、補助金等）等が含まれる。

地域の稼ぐ力 (富良野市)

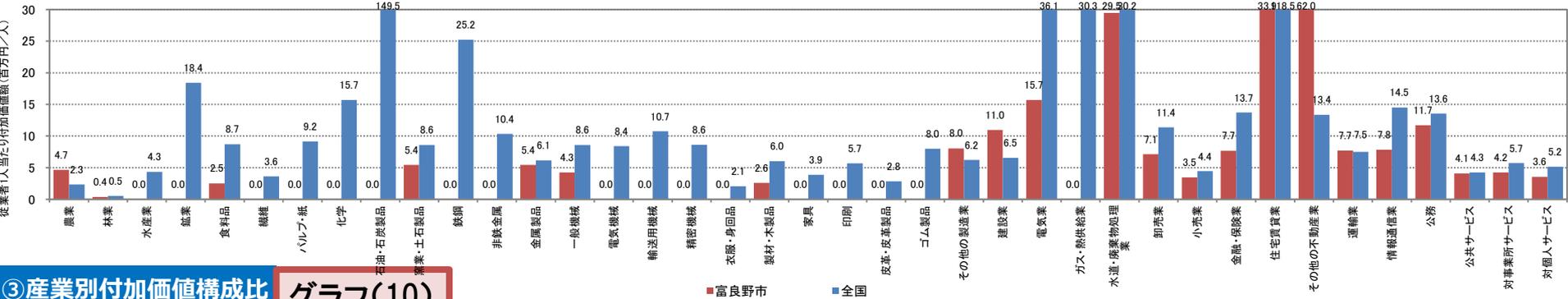
① 産業別労働生産性

グラフ(8)



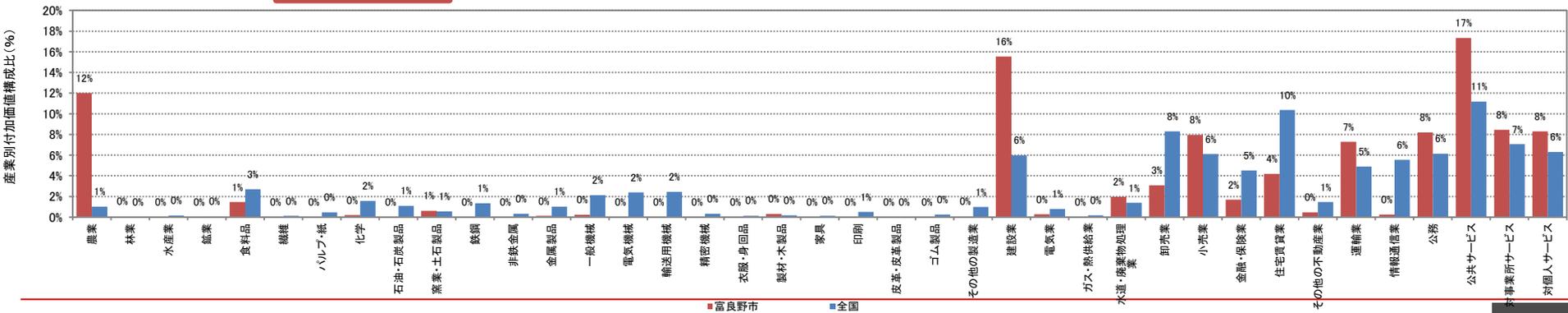
② 産業別労働生産性 (39産業)

グラフ(9)



③ 産業別付加価値構成比

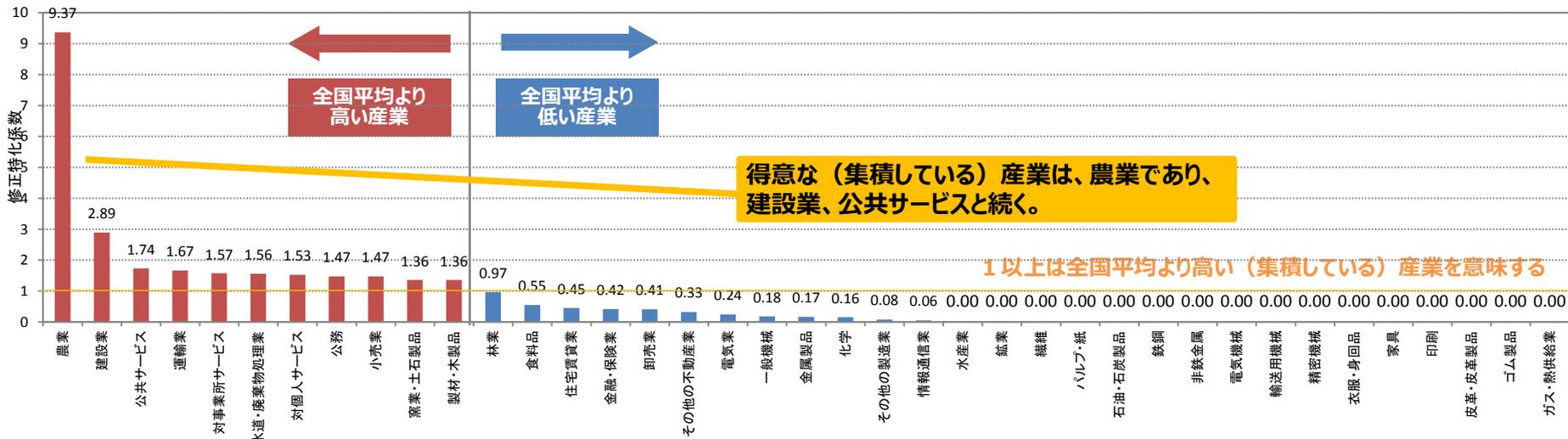
グラフ(10)



地域の得意な産業と域外から稼ぐ産業（富良野市）

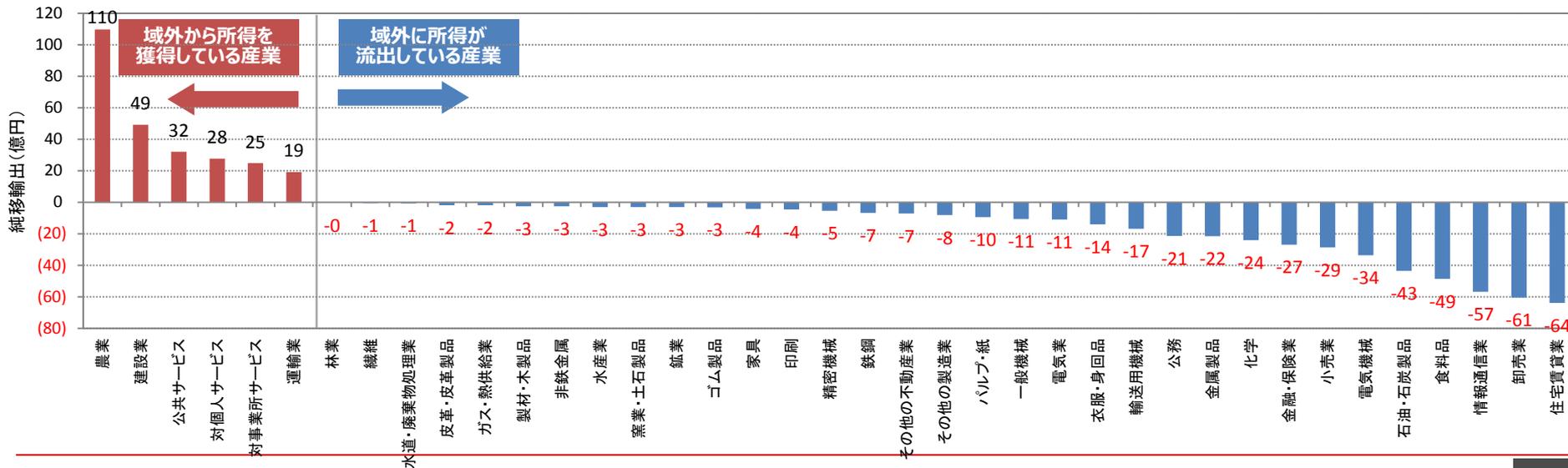
①得意な産業：修正特化係数（生産額ベース）

グラフ(11)



②外から稼ぐ産業：産業別の純移輸出額

グラフ(12)

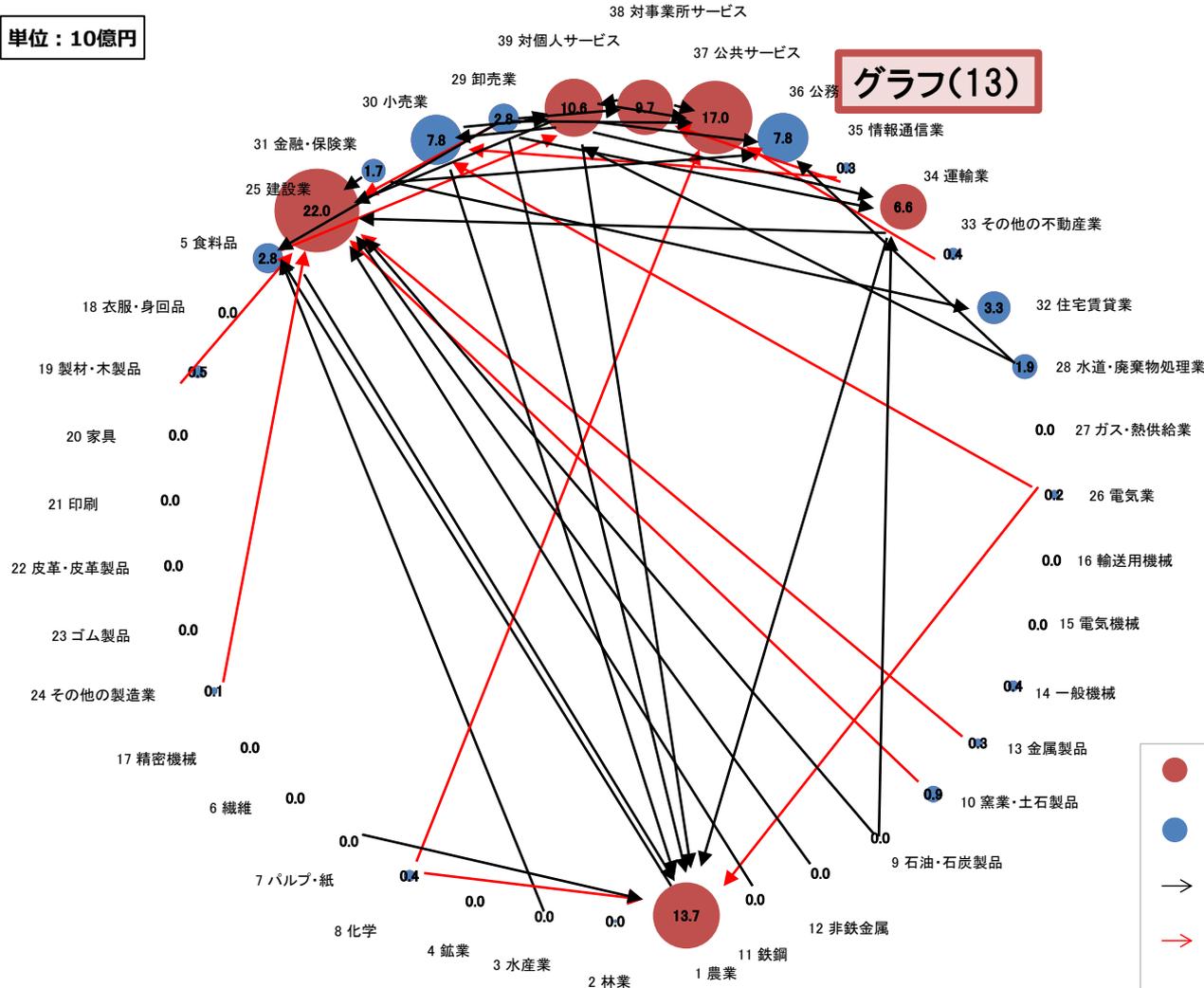


地域の産業間取引構造（富良野市）

産業間取引構造

単位：10億円

グラフ(13)



「建設業」は、地域内では主に「窯業・土石製品」「金属製品」「卸売業」等から原料等を調達している。

しかしながら「窯業・土石製品」「金属製品」「卸売業」は域外からの移入に頼っており、建設業の需要を域内生産では賄いきれていないことが分かる。

- 純移輸出額がプラスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 純移輸出額がマイナスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める取引
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める、かつ当該産業の地域内生産額の30%以上を占める取引

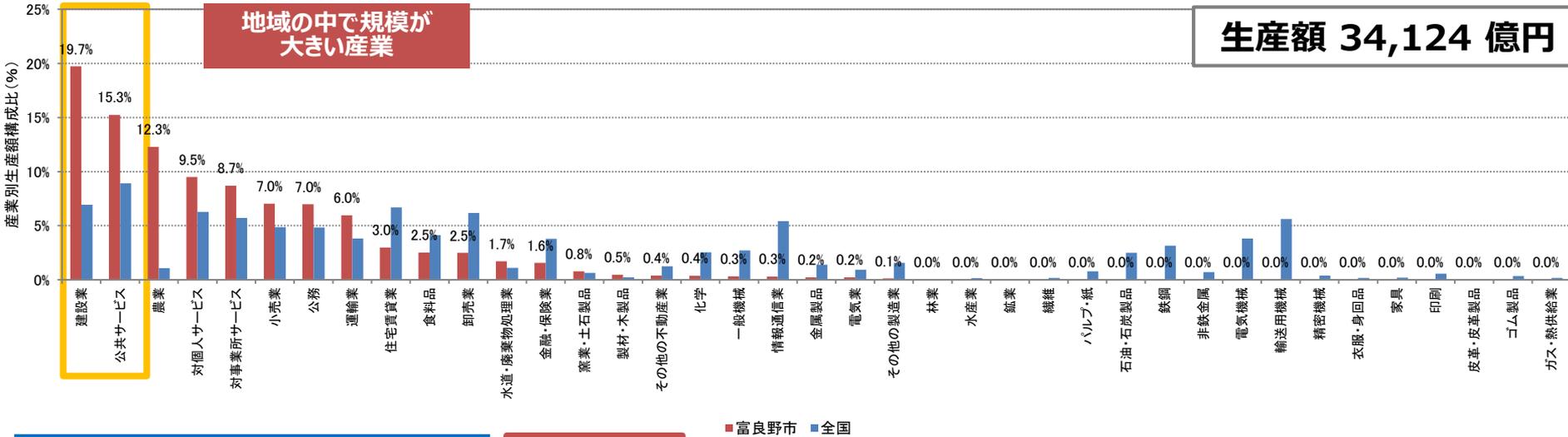
産業別の生産額・雇用者所得（富良野市）

① 産業別生産額（売上）

グラフ(14)

生産額 34,124 億円

地域の中で規模が
大きい産業

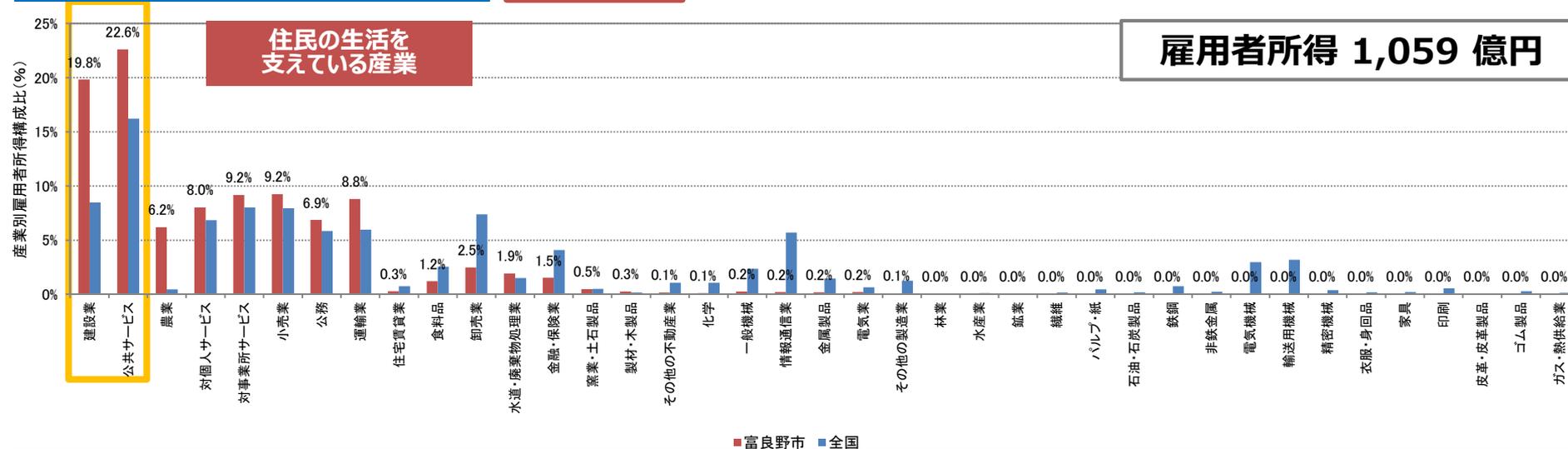


② 産業別雇用者所得（人件費）

グラフ(15)

雇用者所得 1,059 億円

住民の生活を
支えている産業



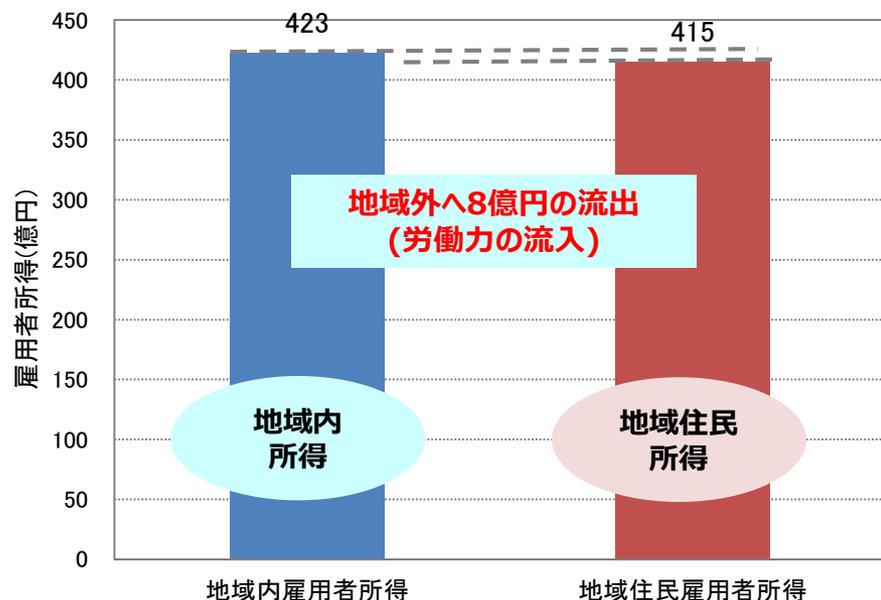
地域住民の分配所得（富良野市）

- ✓ 地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得の方が、地域住民が得る所得よりも8億円多く、地域外へ雇用者所得が流出している。
- ✓ すなわち、労働力が流入することにより、雇用者所得は若干流出している。

- ✓ 地域内で企業が生産・販売で得たその他所得(内部留保、配当等)の方が、地域住民が得るその他所得よりも234億円少なく、地域内へその他所得が流入している。

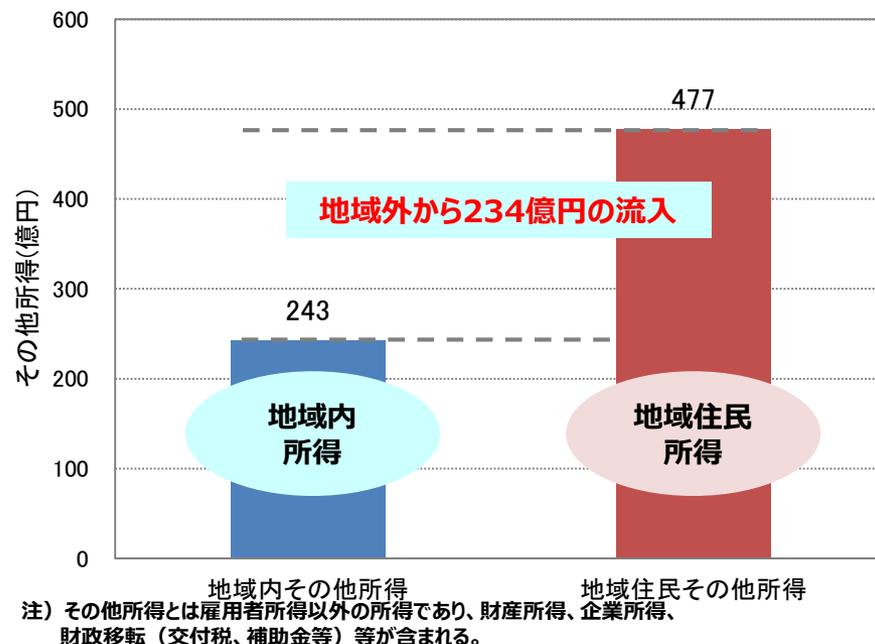
① 地域内雇用者所得と地域住民の雇用者所得の比較

グラフ(16)



② 地域内その他所得と地域住民その他所得の比較

グラフ(17)



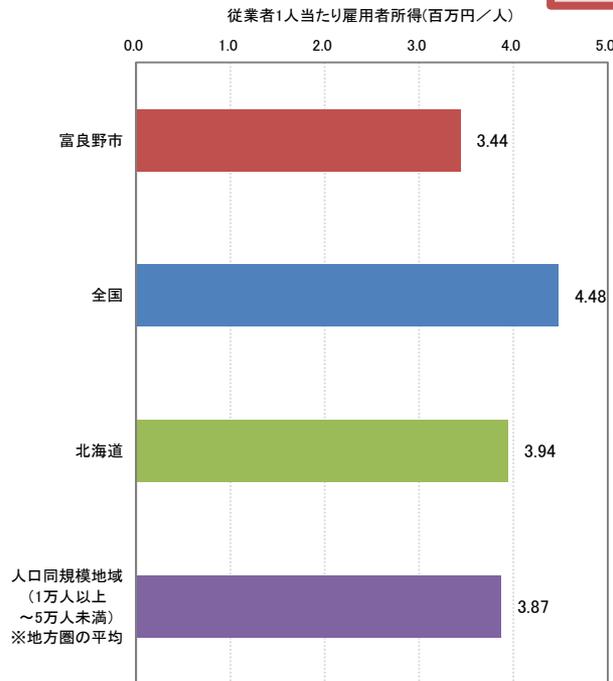
1人当たりの雇用者所得の水準（富良野市）

- ✓ 従業者1人当たりの雇用者所得は全国、道、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ 特に、全国と比較すると104万円も小さく、市内で勤務している従業者の雇用者所得が小さいことがわかる。

- ✓ 就業者1人当たりの雇用者所得は全国、道、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ また、従業者1人当たりと比較して、11万円程度大きく、市外の企業・事業所に勤務している市民の方が若干所得が高い。

① 従業者1人当たり雇用者所得（従業地ベース）

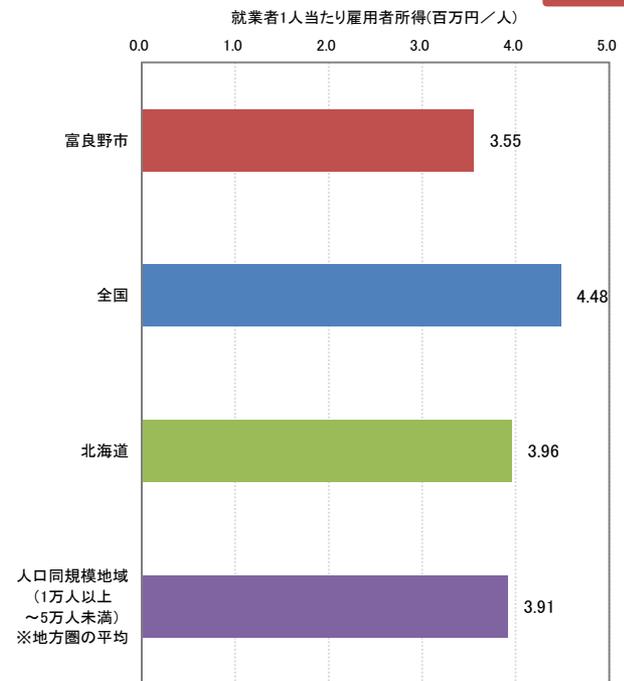
グラフ(18)



注) 雇用者所得は、地域内（域外からの通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

② 就業者1人当たり雇用者所得（居住地ベース）

グラフ(19)



注) 雇用者所得は、地域住民（域外への通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

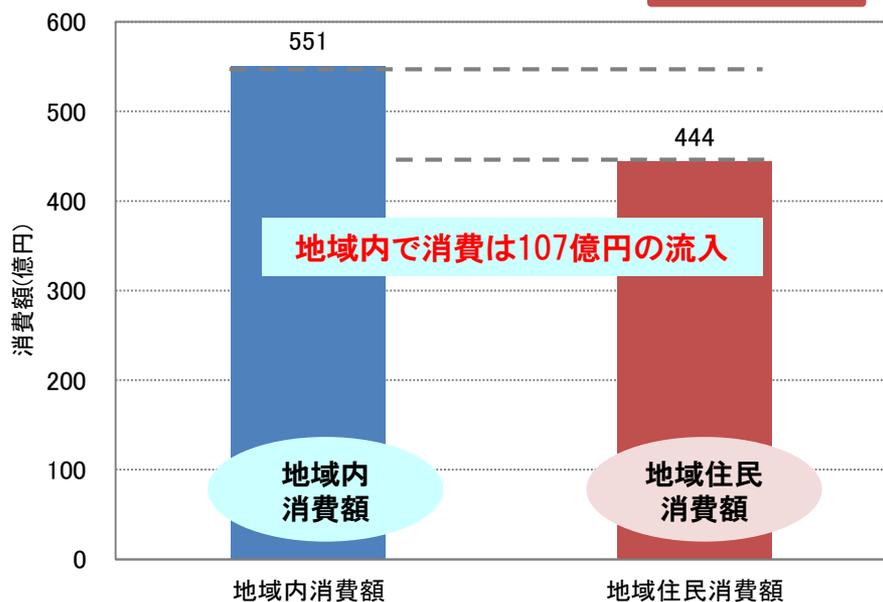
消費・投資の流入・流出（富良野市）

✓ 地域内で消費される額が、地域の住民が消費する額よりも107億円多く、消費が流入している。

✓ 地域内に投資される額が、地域内の企業が投資する額よりも99億円程度少なく、地域外に投資が流出している。

①消費の流入・流出

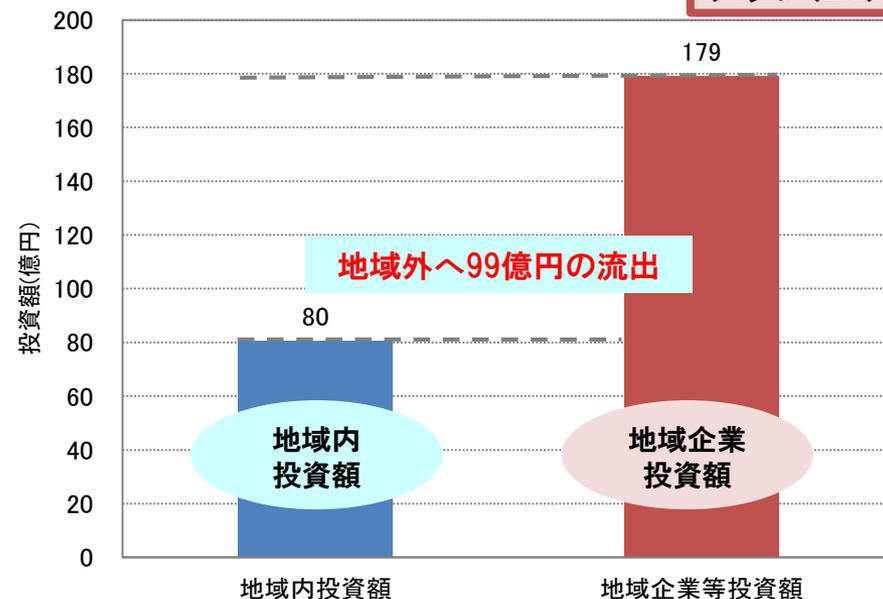
グラフ(20)



注) 地域内消費額は、地域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。
地域住民消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

②投資の流入・流出

グラフ(21)



注) 投資額＝民間投資＋民間在庫品増加
地域内投資額は、地域内の投資額(誰が投資したかは問わない)を表す。
地域企業投資額は、地域内の企業・住民の投資額(どこに投資したかは問わない)を表す。
投資額は年次による額の変動が大きい点に留意する必要がある。

2.富良野市の課題と取組の方向性

富良野市の長所

富良野市は、農業、建設業、公共サービスなどの労働生産性が高い。

① 富良野市は、農業、建設業、公共サービスなどが中心となって産業を牽引している。

- 富良野市では、生産額が最も大きい産業は建設業であり、次いで公共サービス、農業、対個人サービス、対事業所サービスが大きなウェイトを占めている。
- 富良野市では、雇用者所得が最も大きい産業は公共サービスであり、次いで建設業となっている。
- 富良野市では、域外から所得を獲得している産業は農業であり、次いで建設業、公共サービス、対個人サービス、対事業所サービスと続いている。

② 富良野市は、観光や圏域の中心として地域外からの民間消費を呼び込んでいる。

- 富良野市は、富良野・美瑛観光圏（富良野市・美瑛町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村）として広域観光に取り組んでおり、観光産業における民間消費が流入している。
- 富良野市は、富良野圏域（富良野市・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村）の生活圏の中心であり、買物等の民間消費が流入している。

富良野市の短所

富良野市は労働生産性が上がりず、所得水準が低い。設備投資は流出している。

① 富良野市は、地域内の産業間取引が弱い。

- 建設業は、地域経済を支える大きな産業であり、地域内で原料等を調達しているが、調達先の産業が地域外からの移入に頼っており、建設業の需要を域内生産で賄いきれていない。
- 観光地である富良野市を支える食料品・小売業・卸売業の純移輸出額がマイナスとなっている。

② 富良野市の雇用者所得の水準は低い。

- 最終的に住民が得る夜間人口1人当たり雇用者所得は、全国・道・人口同規模地域平均より低くなっている。
- 地域内雇用者所得の方が、地域住民が得る所得よりも多く、地域外へ雇用者所得が流失しており、労働力が流入することで雇用者所得が若干流出している。

③ 将来の生産のための設備投資は流出している。

- 富良野市では、99億円の設備投資が流出している。
- 富良野市では、132億円が地域外からの購入に頼っており、経常収支がマイナスとなっている。

富良野市の今後の取組の方向性

地域内における企業の連携・育成による生産性の向上の施策を展開する。

① 農業と観光の6次産業化による生産性の向上。

- 農業・対個人サービス・対事業所サービスが比較的強いが、第2次産業の企業が少ないため、地域外の食品加工場等で土産品等が製造されている。
- 農業と観光業を有機的に結び付けるため、6次産業化による第2次産業を地域企業で興し、地域金融機関と行政が連携し、支援する。
- 6次産業化が順調に展開されることで、更なる設備投資を呼び込み、関連する地域企業にも好循環をもたらす。

② 地域企業の連携による生産性の向上。

- 建設業が地域経済を牽引しているが、地域企業間の取引・連携が弱い。
- 地域企業間の連携強化、ビジネスマッチングにより、域内調達の上昇による労働生産性の向上を図る。
- 地域企業の生産性が向上し、投資需要が増えた段階で地域金融機関と連動し、地域内外の資金を呼び込み、投資の流出を抑える。